



3.11 のときは外国からもたくさんの方の支援をいただきました。トルコの地震では 3.11 を上回る方が亡くなり苦しんでおられます。児童会では、募金活動を行うことにしました

当たり前の毎日に感謝する日

3月8日(水)に、「3.11」集会が行われました。今回は、東日本大震災当時、種市小学校におられた山口先生のお話をお聞きました。

当時、山口先生は、1年生の担任をされていたそうです。帰りの準備をしてかばんを机の上にもってきていたそうです。そのときに、地面の方から大きな音がして地震が起きました。あまりの揺れの大きさに1年生は先生から何も言われなくても机の下に隠れたとか。机の脚をしっかりとつかまえていないと机がひっくり返りそうな揺れだったそうです。

その後、職員室の先生が校内中を回って外に避難するように指示をしてくださりみんなで校庭に逃げたのだそうです。それは、大きな揺れのせいで電気も止まり放送もできなくなっていたからだったそうです。当時は3月のまだ寒い日だったそうです。何も持たないで外に出たため、先生方が揺れの合間を見て子ども達の上着を取りに校舎内に入ってください、その後、学校にはかばんや勉強道具を置いたまま、迎えに来られたおうちの方と帰ったり、避難所である学校で次の日まで過ごしたりと、余震への心配が続いたそうです。

山口先生のお話は続きます

種市の方で亡くなった方はいませんが、海の施設が押し流されたり、仕事場がなくなったりと大変な苦労をされました。3月の修了式や卒業式が間近なころでしたが、避難所になっていて家庭科室で行った学校や、津波で学校自体が押し流されて卒業式ができない学校もありました。そんななか、種市小学校では、おうちの方や地域の方々方が応援してくださり、体育館で卒業式・修了式を行うことができたそうです。当時の写真には、背筋を伸ばし凛とした姿で式に並ぶ小学生が写っていました。「自分たちがしっかりした気持ちや態度で式を行うことで、地域の方に喜んでもらおう、元気を出してもらおう」と考えてのことでした。

山口先生がおっしゃいました

今年も、卒業式や修了式が行われます。でも、当たり前にできなかった頃のこと思い、3月11日を**当たり前の毎日に感謝する日にしたい**と思うのです。そして、**今ある命を大切にしていきたい**のです。

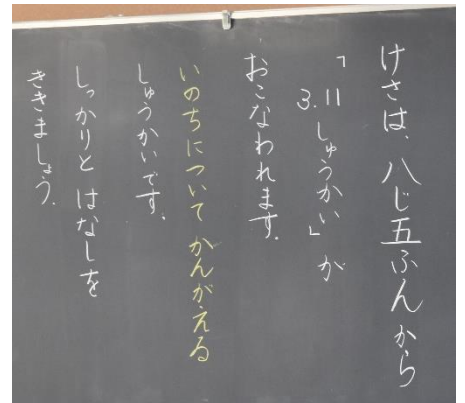
「感想の発表」

話を聞いたら、「自分はこう思いました」ということをお伝えすることが、何よりのお礼になると考えます。うまく言えなくても、聞いて何かを感じて、そしてそれを伝えたいと思う。周りの子はそれを「そうか、そんな風に感じたのか」と聞いてあげる。そんな風でありたいと願っています。



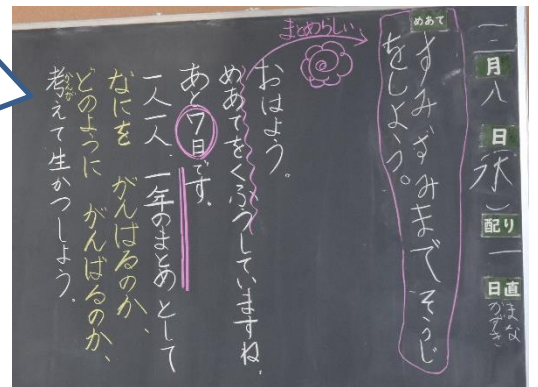
自分達で集会向かう

二年生の教室の前を通りかかったら、並ばせる係でしょうか、「前ならえ」をしてみんなを並ばせています。1年生が出発したあとの教室には、今日の集会の意味が黒板に書いてあって、「聞く心構え」をつくってから出発したことがわかります。



1年生の黒板にはもう1つ

1年生の黒板にはもう1つのことが書かれてありました。**3月8日のめあては「すみずみまでそうじをしよう。」**でした。1年生ががんばって書いたことが伝わってきます。そして、先生から励ましをいただきながら1年のまとめに向かって進んでいることがよくわかります。



あいさつは？

1年を通してあいさつに取り組んできました。児童会も頑張っていますし、以前よりあいさつの声が聞こえるようになりましたが、もっと続けて広げていきたいと考えています。先日、保護者の皆様にお配りした「学校評価」の結果でも、保護者による評価と教職員による評価が分かれています。「おうちではあいさつしているようですが、学校ではもっと増やしたいと見ています。

「令和4年度学校評価について(3/1)」より

○ 保護者の皆様によるアンケートと教職員の自己評価の比較

※1 思う、そう思うと答えた人数の割合 ※2 よくできた(8割)できた(6割以上)と答えた人数の割合

項目	保護者の評価			教職員による自己評価	
	内容	A+B(※1)(1学期)	内容	評価※2	
頭が元気 (進んで学習する子ども)	1 学習環境を整えて取り組む	90.1% (91.4) ↓	学習の基本を育てる	90.9%	
	2 家庭学習に取り組む	96.9% (92.3) →	授業の工夫に取り組む	81.8%	
	3 読書の推進	79.4% (79.4) →		72.7%	
心が元気 (思いやりがある子ども)	4 あいさつや返事	99.4% (96.3) ↑	あいさつやよい言葉遣いを広める	45.5%	
	5 きまりを守った生活	100% (99.0) ↑	判断する力を育てる	90.9%	

地域の方からは、「あいさつの取り組みが終わっても元気なあいさつを返してくれる子がいます。でも、返してくれないときもまだありますね。」という声も聞かれます。あいさつがよくなりつつある反面、まだ、あいさつを返せないでいる子もいるのが現実のようです。取り組みの最中だけでなく終わっても、「人との関係づくりの基本」としてあいさつを広げ、定着させていきたいと考えています。

朝、校門から移動して毎日違うところに立ちってみました。校庭の歩道のところなら、体育館の方から来る子、車から降りて来る子、バスから降りる子、…、いろいろな子に会えることに気が付きました。あっちからもこっちからもあいさつが聞こえます。こちらも、あっちへもこっちへも大きな声であいさつをします。でも、中には、2回・3回目でやっとあいさつを返してくれる子もいます。最近、車から降りる子があいさつを返してくれるようになりました。おうちの方が、「あいさつは!？」と言ってくださっているのではないかと見ています。

あいさつを広げて定着させていくために、おうちでも「あいさつは!？」とか「あいさつしてるの？」との声掛けをお願いします。来年度も続けて取り組みたいですが、まずは今からお願いします。